

2008年度 防災教育 チャレンジプラン ワークショップ

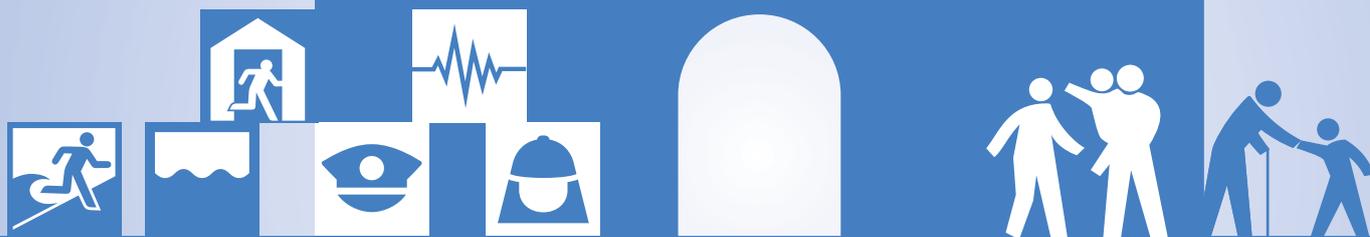
Disaster Management Education Challenge Plan Workshop

2008年度
防災教育
チャレンジプラン
成果発表

2009年度
防災教育
チャレンジプラン
決定・発表

日時:2009年2月14日(土) 10:30~17:00
2009年2月15日(日) 10:00~13:00

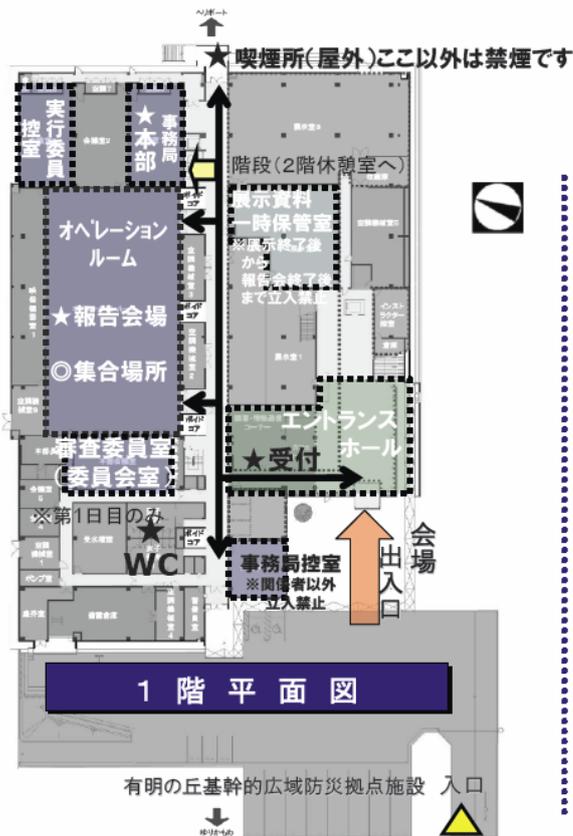
会場:有明の丘 基幹的広域防災拠点施設(東京・有明)



主催/防災教育チャレンジプラン実行委員会

後援/内閣府、総務省消防庁、文部科学省、国土交通省、全国知事会、全国市長会、
全国町村会、日本赤十字社、全国都道府県教育委員会連合会、日本PTA全国協議会

会場図



オペレーションルーム・報告会場レイアウト図



防災教育チャレンジプランとは？

国内外で大規模な災害が起きている昨今、またいつ災害がやってくるかわかりません。いつやってくるかわからない災害に備え大切な命を守り、できるだけ被害を減らし、万が一被害があった時すぐに立ち直る力を一人一人が身につけるため、全国の地域や学校で防災教育を推進するためのプランです。

全国各地の防災教育への意欲をもつ団体・学校・個人等に対し、より充実した防災教育のプランを募集し、「防災教育チャレンジプラン」として選出した上で、その実践への支援を行います。

1年間の実践の後、その実践例や支援した取り組みの内容をワークショップを通じて広く公開・共有するとともに優れた実践の表彰を行うことで、全国の防災教育に取り組む団体・学校・個人やそのプランに光をあて、各地域で自律的に防災教育に取り組むことのできる環境づくりを目指します。

防災教育
チャレンジプラン
の実践

新しいプラン内容の開発
新しい連携体制の構築
新しい教材の開発

防災教育チャレンジプラン実行委員会

委員長	林 春男	京都大学防災研究所巨大災害研究センター 教授
委員	飯島 義雄	総務省消防庁国民保護・防災部防災課 課長
	池内 幸司	内閣府参事官（地震・火山担当）
	井上 浩一	防災ネットワークプラン 代表
	鍵屋 一	板橋区総務部契約管財課長
	国崎 信江	危機管理アドバイザー 危機管理教育研究所
	栗田 暢之	特定非営利活動法人レスキューストックヤード 代表理事
	五島 政一	国立教育政策研究所 教育課程研究センター基礎研究部 総括研究官
	沢野 次郎	災害救援ボランティア推進委員会 事務局長
	篠田 貴司	東京都江東区立深川第五中学校 教諭
	諏訪 清二	兵庫県立舞子高等学校 環境防災科 科長
	田村 拓	株式会社CSKホールディングス 常務執行役員
	中川 和之	時事通信 防災リスクマネジメント Web 編集長
	永峰 好美	株式会社プランタン銀座 取締役
	平田 直	東京大学地震研究所 教授
	福和 伸夫	名古屋大学大学院 環境学研究科 教授
	舩木 伸江	神戸学院大学 学際教育機構 防災社会貢献ユニット 専任講師
	細川 顕司	財団法人市民防災研究所 事務局長
	松尾 知純	BOUSAI-GATE Partners 防災危機管理教育事業コンサルタント
	南島 正重	東京都立小石川高等学校 主幹教諭
	山崎 速人	内閣府企画調整官（防災担当）
	渡邊 淳	文部科学省 研究開発局 地震・防災研究課 防災科学技術推進室 室長

（五十音順・敬称略）

ワークショップ進行スケジュール

<第1日目 2月14日(土) 有明の丘基幹的広域防災拠点施設>

- 10:30~10:35 開会挨拶 <防災教育チャレンジプラン実行委員会 委員長 林 春男>
- 10:35~10:40 <内閣府大臣官房審議官(防災担当) 田口 尚文>
- 10:40~10:50 有明の丘基幹的広域防災拠点施設の紹介
<内閣府参事官(地震・火山対策担当) 池内 幸司>
- 10:50~12:00 【第1部・その1】 2008年度 実践団体発表
(1団体10分間) (司会進行: 実行委員 中川和之、補佐: 実行委員 船木伸江)
- ⑭ 高知県立高知東高等学校
 - ⑬ 社会福祉法人岐阜アソシア視覚障害者生活情報センターぎふ
 - ⑫ 奈良市立帯解小学校
 - ⑪ 国立大学法人宮城教育大学附属小学校
 - ⑩ 安田学園高校 建築クラブ
 - ⑨ 和歌山県立有田中央高等学校
 - ⑧ 東北福祉大学ピンチヒッター (※①~⑭は団体固有の番号)
- 12:00~13:00 << 昼休憩・懇談 >>
- 13:00~14:10 【第1部・その2】 2008年度 実践団体発表
(1団体10分間) (司会進行: 実行委員 沢野次郎、補佐: 実行委員 船木伸江)
- ⑦ 藤枝市立藤枝中央小学校 PTA
 - ⑥ 特定非営利活動法人ひまわりの夢企画
 - ⑤ 名古屋大学災害対策室歴史災害教訓伝達プロジェクト
~1944 東南海・1945 三河地震
 - ④ なでしこ防災ネット
 - ③ 地球防災隊
 - ② 静岡県立裾野高等学校
 - ① 摂南大学ボランティア・スタッフズ
- 14:10~14:40 【総括】 2008年度 実践団体 最終発表を終えて
2008年度 実践団体への「サポーター認定証」 授与
< 防災教育チャレンジプラン実行委員会 委員 国崎 信江 >
(司会進行: 実行委員 沢野次郎、補佐: 実行委員 船木伸江)
- 14:40~14:50 << 休憩・懇談 >>
- 14:50~ (1団体7分間) 【第2部】 2009年度 実践団体発表
(司会進行: 実行委員 松尾知純、補佐: 実行委員 船木伸江)
- ① 滋賀県立彦根工業高等学校(都市工学科)
 - ② シファン大学生志願者連合会
 - ③ 特定非営利活動法人 日本沼津災害救援ボランティアの会(略称: NVN)
 - ④ 銚子「稲むらの火」防災教育プロジェクト
 - ⑤ 宮城県丸森町立丸森東中学校
 - ⑥ あそび ma・senka
 - ⑦ 早稲田レスキュー
 - ⑧ 神奈川県平塚保健福祉事務所
 - ⑨ Safety Leader Students' Network(略称: SLS)
 - ⑩ 和歌山県立新翔高等学校防災デザイン選択生
 - ⑪ 紀の川市立荒川中学校

16:10~16:25 2009年度 実践団体選考にあたって
 < 防災教育チャレンジプラン実行委員会 委員 諏訪 清二 >

16:25~ 2008年度防災教育チャレンジプランの表彰・講評
 < 防災教育チャレンジプラン審査委員会 委員長 近藤 信司 >
 (司会進行: 実行委員 鍵屋 一、補佐: 実行委員 船木伸江)

17:00頃 << 第1日目 終了 >>

(※ 敬称略)

ワークショップ進行スケジュール

<第2日目 2月15日(日) 有明の丘基幹的広域防災拠点施設>

10:00~ (1団体7分間) 【第3部・その1】 防災教育に関する優秀な実践団体による発表
 (司会進行: 実行委員 南島正重、補佐: 実行委員 船木伸江)

◆ 「2008年度 防災教育チャレンジプラン」入賞団体
 ~大賞、優秀賞、特別賞 各受賞団体による発表~

10:50~11:00 << 休憩・懇談 >>

11:00~ (1団体7分間) 【第3部・その2】 防災教育に関する優秀な実践団体による発表
 (司会進行: 実行委員 南島正重、補佐: 実行委員 船木伸江)

◆ 「ぼうさい甲子園」入賞団体

①水の自遊人しんすいせんたいアカザ隊 (小学生部門 優秀賞)
 ②宮城県気仙沼市立階上中学校 (中学生部門 はばタン大賞)
 ③和歌山県立田辺工業高等学校 (高校生部門 ぼうさい大賞)
 ④千葉科学大学生消防隊 (大学生部門 だいじょうぶ賞)

◆ 「ぼうさい探検隊 マップコンクール」入選団体

①岡山県備前市立神根小学校 (文部科学大臣賞)
 ②三重県鳥羽市安楽島子ども会 (消防庁長官賞)

◆ 「地域の安全安心マップコンテスト」の紹介

①安全安心マップコンテスト事務局 <立命館大学 文学部 村中 亮夫>

11:50~12:50 意見交換会
 (司会進行: 実行委員 井上浩一、補佐: 実行委員 船木伸江)

12:50~13:00 閉会挨拶
 <防災教育チャレンジプラン実行委員会 委員長 林 春男>

13:00頃 << 終了 >>

(※ 敬称略)

① 摂南大学ボランティア・スタッフズ

日本は地震が多い国です。いつ・どこで大地震が発生しても不思議ではありません。身の回りで大災害が発生した時、けが人が出た時、あなたはどうしますか？大災害が一旦発生すれば、救助隊の到着は遅れます。そんな時に、「緊急サバイバル術」を身につけていれば、救助隊に助けられるまでの2～3日間、生命を維持することができます。私たち「摂南大学ボランティア・スタッフズ」は、緊急サバイバル術や緊急救命のライセンスをもっているのです、それを皆さんに教えながら、「いざ！」というときに活躍できる青少年リーダーを育てます。

② 静岡県立裾野高等学校

富士山の裾野に位置する創立104年を迎える総合学科の高校です。災害に対応できる能力や態度を育成することを目的として、教科「環境と防災」を設けて授業を行っています。また、環境防災倶楽部の生徒を中心に、大学や地域の防災関係機関と協働して地域住民へ情報を発信するなど、防災啓発活動を積極的に推進しています。

③ 地球防災隊

兵庫県立舞子高校在籍時に防災教育を受けた経験を生かし、卒業後も個々それぞれで活動の場は違うものの自らが担い手となり、多くの場で防災活動を行ってきた。そこで得た知識や情報を共有し、防災に触れる場をつくる担い手の育成を行うことにより持続的に防災教育が広がるという新しい団体を創りました。

④ なでしこ防災ネット

神奈川県央の西部に位置する秦野市を拠点にH17年8月、防災士に設立準備会開催の呼びかけをし、行政、地域ボランティア10団体とネットワークをはかり、主に親子、障害者を対象に防災町づくり活動を推進してきた。“女性への視点/女性からの視点”で考える 災害と女性 支えあう災害に強い社会をめざしています。

⑤ 名古屋大学災害対策室歴史災害教訓伝達プロジェクト～1944 東南海・1945 三河地震

地元・愛知県を襲った1944年東南海地震と1945年三河地震は、戦争中に起こったため被害の様子があまり知られていません。そこで我々は、被災者に直接話を聞いて、埋もれている被災体験の掘り起こしを進めてきました。この集めた被災体験を活用し、地域の様々な人と協力しながら防災教育にチャレンジしています。

⑥ 特定非営利活動法人ひまわりの夢企画

阪神淡路大震災での経験を活かそうと中越・能登・中越沖地震と、復興支援活動を3年間続けています。活動をしなが、30年先と言われる東南海地震を想い、未来を担う子供たちに防災教育の必要性を感じ、楽しく学ぶ体験型の教材をと「防災楽習迷路」を考案し制作しました。今年からは、防災教育に力を注ぎたいと思います。

⑦ 藤枝市立藤枝中央小学校 PTA

東海地震が心配されている地域にある小学校です。校訓「たくましくなかよく」のもと子どもたちの笑顔・活気いっぱい、花いっぱいの学校です。平成18年度より、年に1回、PTAによる「PTC活動～防災～」が企画・運営されています。平成20年度は「通学路DIG・医療・防災の知恵」について親子参加型訓練を行い「当事者意識を高める・地域に広げる」ことをめざしています。

2008年度防災教育チャレンジプラン実践団体紹介

⑧ 東北福祉大学ピンチヒッター

防災に興味を持った学生が集まり、地域に密着した防災に関する活動を行うことを目的に、団体を発足しました。昨年は非常食作りや減災カルタ大会など行ってきました。現在は防災に関するすごろくを作成中で、今後も防災ツール作成を基盤に、活動を行っていきます。

⑨ 和歌山県立有田中央高等学校

本校は明治40年に三村組合立の吉備実業学校として創立され、昭和23年に和歌山県立吉備高等学校となりましたが、平成9年に約130科目の選択科目をもつ総合学科として生まれ変わり、校名を有田中央高等学校に改変しました。本格的な防災教育へのチャレンジは平成20年度からです。

⑩ 安田学園高校 建築クラブ

今年度より建築科3年生の実習の1部門に木造耐震診断実習を設け、選択者13名でチームを作り、墨田区内の木造耐震診断を実施しています。建築クラブ(10名)も上記同様に木造耐震診断を実施しています。
また、墨田区耐震補強推進協議会の方から耐震に関するレクチャーをいただき、さらに墨田区の建設会社の協力で現場見学をさせていただき、耐震に関する知識を深めています。

⑪ 国立大学法人宮城教育大学附属小学校

今後30年以内に99%の確率で宮城県沖地震の発生が予想される仙台市の中心部にある学校です。平成18年度より「仙台学」(総合)の一環として、『防災』をテーマに学習を展開しています。平成20年度は、小学校における体系的な防災教育の開発をメインとしながら活動を展開していきます。

⑫ 奈良市立帯解小学校

本校は学級数7、児童数144名の小規模校で、奈良市の南に位置し、校区の東には南北に奈良盆地東縁断層帯が走っています。平成18年1月に奈良県より出された「奈良県学校地震防災教育推進プラン」をもとに、学校の中に防災教育を取り入れ、各学年での実践を進めています。

⑬ 社会福祉法人岐阜アソシア視覚障害者生活情報センターぎふ

特別支援学校に通う児童生徒は要援護者です。地域の方々は「助けなければ!」という意識の反面「どうしたら?」とも感じています。防災運動会を開催することにより、「見えない・見えにくいけれどできる!」「一緒にできた!」という実践により、不安を安心に変えることを目指しています。

⑭ 高知県立高知東高等学校

総合学科と看護科(5年一貫)を併設する生徒数約730名の全日制高校です。2005年度から「地震列島と私たち」という防災を学ぶ選択講座を開講すると同時に、防災教育チャレンジプランをきっかけに継続的に防災の取り組みをすすめています。

① 摂南大学ボランティア・スタッフズ

プラン名

災害時に活動できる青少年
ボランティア・リーダーの育成セミナー

プランの対象

中学生・高校生

所在地

大阪府寝屋川市

プランの目的・ここがポイント！

ープランの目的・ここがポイント！

自ら防災教育を学び、学生ファシリテーターとなって中高生に対して、「災害時に活動できる青少年ボランティア・リーダーの育成セミナー」を実施し「災害時には自分の命は自分で守る。」という原点に立ち、災害が発生した時の対応、行動を座学と実践で経験し、家族や地域の人々を助ける知識を習得するユニークな活動。

ープランの概要

何事にもチャレンジするリーダー的意識を育む活動やセミナーを行った。自然災害に対して地域にどのような危険と問題があるかを理解し、その状況に応じて自主的に対応ができるようにした。また、減災という視点から、生命に関わる被害が軽減できるよう、災害現場において実際に役に立つ知識と技術が発揮できるような実践的な活動を1年間体験することで災害に備えている。

ー期待される効果・ここがおすすめ！

1年間に12回のセミナーとワークショップを開催した。参加者や、学生ファシリテーター自身が防災教育に関する様々な環境や機会を与えられたことで、「気づき」が生まれ、「気づき」から「やる気」、「やる気」から積極的な「行動」に発展した。毎回PDCAを行い、ポートフォリオによる成長記録を実施した。各自のチャレンジ精神と、リーダーシップ、「報告・連絡・相談」の重要性を身につけた。

成果と課題

ー成果として得たこと

成果として地域の人々に「防災・減災」に対する認識を芽生えさせることができた。各種のメディアに取り上げられることで、「参加者」や「協力機関、行政、教育委員会」だけでなく、学生ファシリテーターのモチベーションが向上し、防災教育活動に励みが増した。

ー全体の反省・感想・課題

本活動は、参加者と学生ファシリテーターの成長記録（ポートフォリオ）を毎回記録しており、1年間で知識・行動力・責任感に特段の成長が見られる。将来的に「災害時に活動できる青少年ボランティア・リーダーの育成セミナー」は、セミナーの参加者（修了者）が主体となって行う活動であるべき。「この認識を参加者に植え付けることができたか」という視点では、まだまだ課題が残されている。活動対象を中高生としていることから、教育委員会との共催にしたが、現実的には、共催したメリットより、時間的ロスのデメリットのほうが大きかった。



ー今後の継続予定

本活動は、寝屋川青年会議所の協力を得て3年前から継続的に実施しており、本年度だけで終了するものではない。参加者の「やる気」「モチベーション」「活動力」を今後も発展的に維持するため、新しい参加者や、新しい学生ファシリテーターを加えながら、次年度以降も「災害時に活動できる青少年ボランティア・リーダーの育成セミナー」を実施する。

② 静岡県立裾野高等学校

プラン名

「地域防災の架け橋となる裾高生」
-地域に貢献できる防災指導者の育成を目指して-

プランの対象

小学生(低学年)・高校生・教職員・
保育士等地域住民

所在地

静岡県裾野市

プランの目的・ここがポイント！

ープランの目的・ここがポイント！

- ・ 総合的な学習の時間「環境と防災」を毎週学習することによって、高校生として防災に関する知識技術を学ぶ。
- ・ 高校生による防災に関する情報の発信。
- ・ 生徒・教員がともに学ぶ環境作り。

ープランの概要

- ・ 総合的な学習の時間「環境と防災」実施
7つのテーマ（メインテーマ講演・サブテーマ授業）・4つのトピックス・まとめ
- ・ 防災イベント実施 防災パネル展示・防災講座
- ・ 教職員研修の実施 参集調査・意識調査・防災ゲーム
- ・ 防災に関するイベントへの生徒参加
高校生防災リーダー育成研修会・静岡県総合防災訓練・ぼうさい甲子園

ー期待される効果・ここがおすすめ！

- ・ 高校生が、自然環境・防災についての専門知識を学び、将来の地域リーダーに育つ。・地域や大学の方々とのつながり。・地域学習への貢献。・「環境と防災」の授業により、指導者である教員の防災意識の向上が図れる。・高校生が教員研修を指導することにより、高校生と教員相互の防災意識の向上が図れる。

成果と課題

ー成果として得たこと

- ・ 日常のニュースがどのように防災と結びついているかを考え、話しかける生徒が増えた。
- ・ クラスで【なまず検定受検】に取り組み合格した。
- ・ 年度ごとメンバーが入れ替わる学校現場で、どんな教科でも防災教育はできるという共通意識を持たれたことは、大きな一歩だと思う。
- ・ 静岡県東部地域防災局・裾野市防災交通室・富士常葉大学・静岡大学との連携も含めて大きなネットワークになりつつあることは一つの目標達成であり、大きな成果であった。

ー全体の反省・感想・課題

- ・ 「薺しの防災」から「納得の減災」へという「防災教育」の方向性を共通認識として教職員が持つことが必要である。
- ・ 防災は専門分野もあり、外部講師等に任せきりになる傾向があるので、生徒の実態を加味した講師との綿密な打合せが必要である。
- ・ 大人、教職員の研修プランの確立が必要である。
- ・ 「体験」の重要性を生徒にどのように伝えていけばよいのが課題である。



ー今後の継続予定

- ・ 総合的な学習の時間「環境と防災」（来年度からは「環境と防災」になります）は次年度以降も継続して行う。

③ 地球防災隊

プラン名

担い手を増やし、園児への防災教室を開く

プランの対象

幼児・保育園児・幼稚園児、高校生、大学生、教職員・保育士等

所在地

奈良県奈良市

プランの目的・ここがポイント！



—プランの目的・ここがポイント！

目的：防災教育の新たな担い手を増やすこと、園児に楽しく防災を学んでもらうこと

ポイント：防災教育の担い手を増やすため、保育士を目指す学生と交流し、幼児向けの防災教材を作成する。紙芝居、クイズ、歌などと防災を組み合わせることにより、幼いころから防災を身近に感じてもらうきっかけとなる。楽しんで学んでもらう工夫をすることで、防災に興味を持ってくれる園児が多くなる。

—プランの概要

- ・幼稚園訪問活動、幼児向け防災教材の作成、防災教室の実施
- ・保育士を目指す学生を対象とした学生セミナーの開催、教材作成
- ・地球防災隊の活動紹介、他団体との連携行事参加

—期待される効果・ここがおすすめ！

保育士を目指す学生と交流し活動することで、防災・保育の知識や情報を共有することができ、幼い子どもにも伝わりやすい防災教材の作成、防災教育の実施が可能となる。また、学生が保育士になった後にも、自身で作成した防災教材を活用することができ、持続性がある。防災と幼児教材を繋げることで、園児はそれを家に持ち帰り、家族に話すと考えられる。子どもの口から防災教室の話題が出ることで、家庭でも防災意識が高まる。

成果と課題

—成果として得たこと

園児のまとめ方や、プログラムを進める中での注意点、絵ははっきりした色使いの方がいいなど、プログラムの改善点や防災教室での反省点などを保育士の先生からご指導いただいた。それにより、次の防災教材ではご指摘いただいたことを参考に製作することができた。幼稚園での防災教室活動や団体の活動報告を教育機関で行ったことで、新聞やテレビなどのメディアを通して地球防災隊の活動を多くの人に知ってもらうことができた。それが反響を呼び、新たな場所での防災教室実施に繋がりがつつある。このように、地道に活動を続けていきたい。

—全体の反省・感想・課題

新たな出会いを通し、私たちも保育という新たな分野に踏み込むきっかけとなり、また今まで関わりがなかった人には防災という新たな分野に触れるきっかけとなったように感じる。この1年、“楽しく防災をすること”を私たちの活動のテーマの一つとして活動してきた。実践する私たちが楽しまなければ、受け手側は楽しんでくれない、防災に興味がない人に目を向けてもらうには、まず楽しいところからスタートさせることが大切なのだということを学んだ。これからも楽しく防災を続け、広める活動をしていきたい。



—今後の継続予定

今まで防災教室を実践してきた幼稚園と今後も関係もち、来年度も継続して防災教室を実施していくことが決まっている。幼稚園訪問も定期的に行っていく予定である。

④ なでしこ防災ネット

プラン名

「女性の視点での防災対策」
日ごろの備えと家族、地域の絆

プランの対象

地域住民

所在地

神奈川県秦野市

プランの目的・ここがポイント！



ープランの目的・ここがポイント！

家庭と地域に密着している女性の視点で防災・減災・災害に強いまちづくりを目指す。男女が共に支え合い助け合える地域、防災体制づくりにむけて「災害の被害を受けやすい女性」と「防災の担い手としての女性」双方の立場から日ごろの備えと工夫をリーフレットにまとめた。それを関係者用に点訳・手話通訳・録音をした。

ープランの概要

- (1) 防災コミュニティサロン・・・4回実施し、防災についての勉強会と主催イベントの準備や反省などを行った。
- (2) 防災講演会2回実施・・・①「わが家の防災」「災害用電話伝言ダイヤル」②「地域における男女協働の自主防災対策」
- (3) 体験型イベント・・・サバイバルデイキャンプ、簡易トイレの作り方、三角巾を使用した応急手当、中学生避難所設営体験、炊き出し訓練、緊急搬送訓練、非常食。 他

ー期待される効果・ここがおすすめ！

・リーフレットは連携団体や行政と広角度から勉強・研究・検討、作成したものを地域に提供することにより、防災メッセージが発信できる。・サバイバルDayキャンプで、自分の命、財産を守る術や、ライフラインが途絶えた環境で生き延びる術を身につけ、発災時にとるべき行動を把握する。

成果と課題

ー成果として得たこと

- ・「いいことをやっているね」という声が大変多く、口コミで参加者が増え、次回の場所や材料の提供をして下さった＝協力者が増えている。
- ・コミュニティサロンやイベントごとにスタッフが成長している。行政や多種多様な団体との交流も深まり、互いに得意分野を活かした連携を図ることができた。

ー全体の反省・感想・課題

- ・今年度は地域の方々からサバイバルDayキャンプ開催の要望があり、参加希望者多数のため、大変忙しい1年となった。
- ・秦野市役所防災課や連携団体、地域の協力のおかげで円滑に事業自体を遂行することができた。

■今後の課題

- ・日常の家庭を守る女性の視点での活動を充実する。
- ・男女のニーズの違いを把握した防災とは
- ・子どもだけでなく、配偶者や要介護者への対応もできるよう、福祉の視点からの減災を普及し、被災時に女性に集中する家庭的負担をどのように軽減するかを探る。

ー今後の継続予定

- ・作成したリーフレットを活用し、家族の防災力の向上から災害に強い社会作りを目指す。
- ・女性の視点からの帰宅困難者防災マップを实际歩いて作成する。



⑤ 名古屋大学災害対策室 歴史災害教訓伝達プロジェクト～1944 東南海・1945 三河地震

プラン名

土地の古老の三河地震被災体験談から学ぶ、
地震・災害のしくみと防災のあり方

プランの対象

小学校(高学年)

所在地

愛知県名古屋市

プランの目的・ここがポイント！



ープランの目的・ここがポイント！

「地域の歴史災害」をキーワードに、地域で過去に何が起こったのかを子どもたちが学習することで「子どもたちの防災マインド」を育て、子どもたち自身が「地域の特徴を反映した具体的な防災対策」を考えることができた。今回は地震災害を対象にしたが、本プランで提案した教育プログラムはあらゆる災害を対象にすることができ、汎用性の広いものである。

ープランの概要

「1クラスの児童を対象にした1年間にわたるプログラム」と「多人数の児童に対する2時間で学ぶことができるプログラム」の2種類を提案することで、学校の実情に即したプログラムが選択できるように配慮した。

ー期待される効果・ここがおすすめ！

「地域」を題材として取り上げるために、子どもたちにとって被害の具体的なイメージがしやすく、災害・防災を「わがこと」として捉えることができる。地域の被災体験を語り継ぐことによって、地域の歴史・風土・災害文化を子どもたちに継承していくことができる。また、子どもたちが学んだことを学芸会などで発表することによって、子どもたちから家庭・地域へ防災の知恵を広げていくことができる。

成果と課題

ー成果として得たこと

「地域の歴史災害の理解を基礎にした防災教材・防災教育プログラム」を作成・立案し、小学校での実践を通して教材・プログラムの検証を行った。
防災教材の作成については、「土地の歴史災害を掘り起こし、まとめ、教材にして次世代に伝えていく」という知の形式知化の一連のプロセスに着目した。

ー全体の反省・感想・課題

「1年間にわたる防災教育プログラム」についての先例がほとんどなく、1年間にわたってどう体系的に防災を学んでいくのかのプログラムづくりに試行錯誤した。
「子どもたちが学んだことをいかに家庭や地域に還元していくか」について当初はアイデアがでてこなかった。最終的に家族や地域の人々が来る「学芸会」において防災劇を上演することで、子どもから家庭や地域への防災の知恵の還元を実施した。



ー今後の継続予定

この過程で、安城市防災課・学校教育課・教育委員会がこの試みを高く評価し「来年度以降も市のプロジェクトとして継続的に行っていきたい」との内約をとることができた。今年度で検証したプログラムを基に、来年度以降はさらに学校数を増やしていきながら試みを継続させていきたい。

① 特定非営利活動法人 ひまわりの夢企画

プラン名

防災楽習迷路の制作と出前

プランの対象

保・幼稚園児、小学生（低・高学年）

所在地

兵庫県神戸市

プランの目的・ここがポイント！



—プランの目的・ここがポイント！

- 1、改良型防災楽習迷路及び運営ソフトを再制作する。
- 2、一般公募で、希望の小学校10校に出前授業をする。
- 3、他のイベントとの共催、他の教材との併用、融合等のコラボレーションも検討する。
- 4、プラン終了後は、出前実費を頂きNPOの防災教育活動を維持継続して行く。

—プランの概要

2007年春に初制作。地域団体等に出前。子供たちの目の輝きに、防災授業に利用出来ないかと考え、「防災教育チャレンジプラン」に応募した。将来を担う子供たちに、防災を楽しく習う教材として迷路を再制作。出前授業の実践を重ねながら問題点を見つけて改良を重ね、防災教材としての完成度の高い防災楽習迷路にすることが最終目的である。

—期待される効果・ここがおすすめ！

- 1、発想の転換・・・この迷路は、行き止まりを探すという逆手法に発想を転換し、遊び心に防災心を刷り込む体験型の防災教育教材である。
- 2、迷路のコース及び面積は、多様に展開可能。
- 3、ソフトも進化・・・①地震で家が壊れ迷路に→小学生向。②「防災マップを作ろう」→中高生・一般向
- 4、当プラン認定の、帯解小・岐阜アソシア・地球防災隊とコラボ交流した。

成果と課題

—成果として得たこと

- 防災楽習迷路の出前授業経験を重ねて、学年、学校の時限、指導法等の授業スタイルに合わせた出前が出来るようになった。
- 新ソフトの誕生で、中学校、高校そして地域へと防災教育の幅が広がり、防災楽習迷路出前先の幅も広がった。
- メディアの協力も得られた事もあり、防災楽習迷路の出前依頼が来るようになった。
- 地震で家が迷路になったという設定から、迷路を一つの町として考える新ソフトが完成した。

—全体の反省・感想・課題

- 公募で、防災楽習迷路の出前先を募集したこと、出前の記事が記事になった事もあり、最終報告作成までに10か所の出前予定が13に増え、報告終了後もまだ2か所ある。嬉しい反省点である。
- 新しいソフトを作ってみて、まだまだこの迷路が使える領域の存在を感じた。経験を積み重ねて洗練されたソフトにすることと、新ソフトの開発が課題に思える。



—今後の継続予定

- 活動支援金の無くなる今後は、価値観のあるより喜ばれる防災楽習迷路に仕上げ、実費を戴き、NPOとしての防災教育活動の継続が可能にして行きたいと考えている。
- 現在、「防災楽習迷路」の商標と迷路の意匠を、特許庁に申請中。

⑦ 藤枝市立藤枝中央小学校PTA

プラン名

児童・保護者・教師が全員参加する
実践的防災訓練（PTC大会）

プランの対象

小学生（低・高学年）、教職員、保護者、
地域住民、その他（医療・防災関係者等）

所在地

静岡県藤枝市

プランの目的・ここがポイント！



—プランの目的・ここがポイント！

地域の防災環境を知り、参加型、体験的な防災教育にPTAが主体となって取り組んでいる。昨年は、防災や医療の専門家を招いての実践であったが、今年は、保護者、地域住民、児童も講師役を担当し、「自らの手で地域を守ろう」という本来のねらいがより強く打ち出された。内容の奥深さと共に取り組む楽しさを体験できた実践になった。

—プランの概要

同じ地域に生活する登校班を単位に全校児童を21グループに分け、DIG、医療、知恵の3つのコーナーから1つずつ体験、学習する。講師役を保護者や児童から募ることから本格的な取り組みが始まった。最初は自信のなかった応募者も、練習や打合せを重ねるごとに意欲を高めていった。PTC大会当日は、初めて出会う参加者を前に落ち着いた態度で説明することができた。現在、来年度の実践に向け、子ども達がクロスロードの問題づくりに取り組んでいる。

—期待される効果・ここがおすすめ！

PTAが主体となって取り組んでいる意義は大きい。学校が中心であれば総合的な学習の時間の有効活用、講師の依頼等、計画的に取り組むことができる。PTAが主体のため、大会は1日に集約される。しかし、取り組みの段階で多くの方が関わり、自主的な表れがたくさん見られた。保護者や児童だけでなく、医療ボランティアの方からも、地域ぐるみでの先進的な取り組みとして、大きな期待を寄せられている。

成果と課題

—成果として得たこと

「自分たちの命は自分たちで守る」ということをより強く意識することができた。保護者の感想の中には、知識不足を反省するもの、この機会に親子で学習を進めたいという内容のものが多かった。参加できなかった父親を交えて家で話し合ったというものもあり、回を重ねる意義を再確認できた。市内の小中学校への資料配付も行った。

—全体の反省・感想・課題

3つのコーナーを設置して取り組む2年目の実践であったため、大きな成果を残すことができた。参加者の意識が高かったことには本当に驚いた。大会だけで終わらず、児童や保護者の感想をもとにクロスロードの検討等、来年度に向け動き出すことができたのは、大きな成果である。こうした表れから子どもが主となるブースの展開も可能であると期待している。地域の防災指導員の意識も高く、来年度は地域での取り組みも内容に加えていきたい。



—今後の継続予定

来年度も継続実施の予定である。負担を少なくし継続実施を考えている。
より自主的な取り組みを強化するため、児童・保護者の講師役、地域のライフラインに関わる企業への働きかけを行い、ブースの拡大を図る。
学習内容を多様化することにより、参加型の学習をより強めていく。そのためには、PTAを中心に関係団体・自治会等と早くからの打合せ調整を計画していきたいと考えている。

⑧ 東北福祉大学ピンチヒッター

プラン名

一般的な食材に災害時救援物資を取り入れた
アレンジレシピ本の作成

プランの対象

乳幼児～高齢者まで

所在地

宮城県仙台市

プランの目的・ここがポイント！

ープランの目的・ここがポイント！

配布される非常食をそのまま食べるだけでなくアレンジし、一般的な食材との組み合わせや、災害時限られた道具や食材を使った料理を紹介することで、食事という身近な部分から防災について考えるきっかけにしよう。乳幼児・高齢者向けのレシピを取り入れ、また食物アレルギーを持った人の方のためにアレルギーを表示するところがポイント。

ープランの概要

災害時における乳幼児や高齢者、食物アレルギーを持った方の食の部分に注目し、災害発生時の様々な条件のもとで作れるレシピを考案し、冊子やデータとしてまとめ、地域住民などに広めていく。カロリーを表示し、ガスや水道が使えないときなどハザード別に掲載する。災害時に配布される物資や一般的な食材を組み合わせたレシピも載せることで、避難所生活などで飽きた食事に対応できるようにする。

ー期待される効果・ここがおすすめ！

- ・災害について考える一つの切り口となり、減災・防災意識の向上につながる。
- ・みんなで楽しく作りながら、防災について学べる。
- ・被災した子どもたちとボランティアの方が一緒に料理をすることにより、心のケアの一つとしての効果が期待される。

成果と課題

ー成果として得たこと

- ・災害時はストレスを感じやすくなる。解消する一つとして、「料理」も考えられると感じた。
- ・災害時における食の問題は、乳幼児や高齢者のそれぞれの状態によっても違ってくるので、各家庭で必要に応じたものを備えておく必要があると感じた。
- ・離乳食に関する知識：過去の事例や体験者の話から災害時の食事のあり方を知った。

ー全体の反省・感想・課題

反省：スケジュールを立てたがその通りに進めることができなかった。レシピ本を作る際、やりたいこと、載せたいことがありすぎてまとめられなかった。始めから絞って進めていけばよかった。

感想：災害時にできる料理を想像してみると、実際に作ってみるのは全く違っていた。まだまだ改良できる点がたくさんあるので今後の活動につなげていきたい。

課題：地域へ出向く機会が以前よりも減ってしまったので、今後地域に出向き活動することが必要と感じた。



ー今後の継続予定

- ・完成したレシピ本を使用し、地域へ出前講座を行い減災・防災を広めていく。
- ・ホームページでレシピ公開し、自由にダウンロードできるようにする。
- ・新たな減災・防災ツールを作成し、減災・防災に興味を持っていただけるものを作る。
- ・料理を通して、地域の繋がりの再確認と共に、更なる連携の強化をサポートしたい。

⑨ 和歌山県立有田中央高等学校

プラン名

『ハイスクール防災講座』

プランの対象

小学生(高学年)、中学生、高校生、教職員・
保育士等、保護者・PTA、地域住民

所在地

和歌山県有田郡

プランの目的・ここがポイント！



一プランの目的・ここがポイント！ 『防災の主人公はあなた』

地震・津波発生時に、以下のことができるように、防災の基礎的な知識を身につけ実習・訓練を受け、3年生全員が一人ひとり防災に賢くなるようにすること。

- ① まずは「生徒自身が自分の身を守り、生き残ること」
- ② 困難な中でも、他の人々と力を合わせて課題に立ち向かっていくこと

一プランの概要 『ハイスクール防災講座』の開講と地域との交流・協働

- ① 総合学習として、「ハイスクール防災講座」を2～3学期に開講。9教科に関連する防災の授業が主体。
- ② 授業の合間に、防災教育用DVD鑑賞、AED訓練や起震車体験、またDIG、防災ゲーム大会、講演会を実施。冬期休暇中の課題として生徒の居住地の防災マップ作成・防災マインドマップの作成。
- ③ 「ハイスクール防災講座」で得た知識・経験を、小中学校への出前授業など地域との交流・協働で活用。有田川町役場、PTA、本校教職員等にも講座への参加を募集。

一期待される効果・ここがおすすめ！ 『社会人の防災力のレベルアップ』

- ① 「ハイスクール防災講座」を全員が授業として受講することで、学校というシステムを使って、継続的に、防災に役立つ未来の社会人を大量に育成することが可能。
- ② 生徒だけでなく教職員、地域にも防災の学習・訓練等の機会を提供し、かつ地域と交流・協働することで地域に貢献できること。

成果と課題

一成果として得たこと

生徒：大きな防災力の向上となったと考えている。

教職員：防災の意識や知識が向上し、それが家庭等の別のところでも応用されているように思う。

多くの教職員から様々な分野で協力・支援を得た。教職員間のこの協力は職場の宝物となった。

教材：新しく「防災マインドマップ」という教材を作成できた。

地域との交流：消防署や役場と今後も行かせる交流ができたこと。

一全体の反省・感想・課題

プラン実施：大旨計画通りに進めることができたと思う。小中学校の出前授業が残っているので最後まできちんと実施したい。

防災教育の担い手：自己の担当教科は無論、授業以外のプログラムに関しても基本的に一人で計画・準備・実施と段取りをしなければならなかったのが、2学期からは本当に激務であった。来年度は、防災教育担当者を一人補充し、仕事を分担してもらい、防災教育ができる職員を徐々に増やしていく必要がある。

地域との連携・協働：地域の自主防災組織との連携を有田川町役場に打診してみたが、自主防災組織の活動があまり進んでいないらしく、連携できなくて残念だった。



AED訓練

一今後の継続予定

2010年度までは継続可能。2011年度から新カリだが継続するよう要望したい。

⑩ 安田学園高校 建築クラブ

プラン名

防災力を高める（地元地域の防災強化、高校生の防災知識の習得、地域住民の防災意識の定着）

プランの対象

高校生・地域住民・社会人、一般

所在地

東京都墨田区

プランの目的・ここがポイント！



ープランの目的・ここがポイント！

地域や専門家との連携により、多くの木造耐震診断を行い、子どもたちが将来の防災の担い手として活躍してもらう。

ープランの概要

- ・今年得た知識を元に、さらに充実した木造耐震診断を行う。
- ・プレゼンテーション、成果発表を行い、多くの地元地域の方々に理解を得る。

ー期待される効果・ここがおすすめ！

- ・高校では防災という科目が無く、教える機会がないため、木造耐震診断を行うことにより実践活動を通じて防災に関する知識を吸収し、意識を高めることができる。
- ・プレゼンテーション、成果発表を行うことにより、地域住民や一般市民の方への防災意識が高まる。

成果と課題

ー成果として得たこと

- ・活動に直接関わったクラブ員は、耐震の必要性を十分に感じ取ることが出来たように思う。
- ・すみだ耐震補強推進協議会（すみだ耐震協）の協力、アドバイスを受ける事が出来たのは生徒にとっても良い勉強になり、物件を紹介していただいた事は大変感謝している。

ー全体の反省・感想・課題

クラブ員は耐震の必要性を十分に感じ取ることが出来た反面、地域住民に十分伝えることが出来なかった部分があるように思う。

また、耐震は必要であると理解していただきながらも、木造耐震診断を実行するには至らなかったという結果が大半であった。

ー今後の継続予定

引き続き、他の町会を診断し、将来的にはある程度まとまったデータが出来た時点で墨田区長に何らかの形で伝えられたら良いと思う。



⑪ 国立大学法人 宮城教育大学附属小学校

プラン名

99%！本当にやってくる宮城県沖地震
～みんなの力で立ち向かえ～

プランの対象

小学生（高学年）を中心（低学年を巻き込んで）

所在地

宮城県仙台市

プランの目的・ここがポイント！



—プランの目的・ここがポイント！

- ・ 第1学年から第6学年までの小学校防災教育の体系的なプログラムを開発・実践し、子どもたち・地域・保護者を巻き込んで防災意識の向上を図る。
- ・ 開発した小学校防災教育の体系的プログラムを県内外に広め、防災教育の普及を図る。

—プランの概要

○緊急地震速報を活用した避難訓練（全校）、○起震車での体験的活動の充実（3・6年）、○防災キャンプ（6年：避難所宿泊体験訓練）、○防災マップづくり（3・4年・保護者：学校・地域・登下校）、○自宅危険度調査（5年・保護者：家庭の防災マップ作成）、○専門家による特別講義（4・5・6年：東北大学災害制御センターなど）、○災害に強い街へ（5・6年 仙台市への提言）、○教材・教具の開発（立体地図、すぐに使える防災バック、防災マップ）、○体系化された防災教育の取り組みの普及（リーフレット及び年間指導計画）

—期待される効果・ここがおすすめ！

- ・ 防災教育を系統的に実施することで、確かな「防災力」及び「危機回避能力」が身に付く。
- ・ 年間計画の実施により学年間の重複や子どもたちの興味・関心の継続が図られる。
- ・ 専門家の講義により、地震の基礎的知識の習得と最先端の科学技術への興味関心を高めることができる。
- ・ 子どもたちの学びを通して、保護者・地域住民への防災意識の向上が期待される。

成果と課題

—成果として得たこと

- 「防災力」が向上し、自分から瞬時に身を守る行動や心構えをもつことができるようになった。
- 年間指導計画により、学年間での重複や系統的な指導を行うことができるようになった。
- 仙台市がどのように宮城県沖地震に取り組んでいるのか、自分たちはどのように行動すればいいのかなど、防災から仙台という地域を見直すことができた。
- 宮城県教育委員会の防災教育の指針において実践例として掲載され、全県の公立学校の防災力向上の一翼を担うことができた。

—全体の反省・感想・課題

- 防災意識の向上が見られるようになった「子どもたち」「保護者」がいることで、今後予想される宮城県沖地震で自助・共助の力が発揮されるものと考えている。
- 本実践は、まだ研究が始まった段階である。今後も継続しながらよりよい実践を開発していく必要がある。
- 教科で得た力をしっかりと生かしていけるような防災教育を今後計画していく必要があると考える。



—今後の継続予定

- 次年度以降も教科学習との関連性を取り入れながら実施していきたいと考えている。
- 宮城県の「防災教育の指針」に実践例として掲載される本校の取り組みが、全県の公立小学校で追試されることで、よりよい実践になることを期待している。

⑫ 奈良市立帯解小学校

プラン名

帯解小防災教育チャレンジプラン

プランの対象

小学生(低学年・高学年)保護者・PTA

所在地

奈良県奈良市

プランの目的・ここがポイント！



ープランの目的・ここがポイント！

- ・地震についての正しい知識と防災の意識を高める
- ・震災体験談から、命の大切さや防災について考える

ープランの概要

・平成18年度1月に奈良県より出された「奈良県学校地震防災教育推進プラン」をもとに各学年や全校での実践を進めた。年間を通しての避難訓練を繰り返し実施した。非常食作り、防災頭巾、安全マップ作りなど楽しい体験を通して、地震への備えについて学んだ。震災体験をされた方を、講師として招聘し豊かな感性を培った。

ー期待される効果・ここがおすすめ！

- ・地震について正しく理解し、防災についての意識が高まった。
- ・講師の方の思いを知り、感性豊かな心を培うことができた。
- ・ボランティア活動に触れ、人のために生きることの素晴らしさや、命の尊さに気づくことができた。

成果と課題

ー成果として得たこと

- ・子どもたちが地震災害を自分の身近なこととして捉えることができた。

地震に限って言えば、今の子どもたちは阪神・淡路大震災を直接知らない。テレビなどにあふれ出る震災のニュースや体験談を耳にすることで、「怖い、大変という気持ちが先行していた。

しかしそこから一歩進んで、児童は「自分は何ができるか。」を考えることができた。「まず自分の身の安全を確保する」から、「赤ちゃんである妹だけは抱いて逃げたい」と、感想を述べた児童がいた。

ー全体の反省・感想・課題

- ・体験ありきではなくまず心構えを作る

体験学習は非常に有効であるが、いつもと違う体験をするだけで学習を終えることがあった。例えば「非常食を作る」のではなく、「非常食が必要な理由、必要な道具、自分たちが住んでいる所ではどこに行けば道具が揃うのか」等の体験の前学習への心構えを、児童が作っておく必要があった。

ー今後の継続予定

- ・今年度の学習内容を精選し各学年で防災教育の中心となる内容を決め、それを中心とした事前事後学習を組み立てたい。



⑬ 社会福祉法人岐阜アソシア 視覚障害者生活情報センターぎふ

プラン名

防災運動会
(一緒にできるよ 楽しもう! 助けあおう)

プランの対象

障がい者・地域住民・その他どなた
でも参加自由

所在地

岐阜県岐阜市

プランの目的・ここがポイント!



ープランの目的・ここがポイント!

障がい当事者が中心となり地域住民ほか様々な方が一緒になって、災害を想定した競技で楽しみながら防災について学ぶ機会と場所の提供及び、啓発、およびこれに係る関連活動

ープランの概要

防災運動会の付随活動

- ① 防災落語会
- ② まち発見隊の結成
- ③ 普通救命講習Ⅰの開催
- ④ 障がい当事者への防災研修

防災運動会

- ① 広報活動
- ② 競技開発

ー期待される効果・ここがおすすめ!

障がい者は全て要援護者であるのか? そうではなく、できることはたくさんある。しかし、実際に防災活動に参加する障がい当事者は少なく、その機会さえもない状況である。

障がい者がいかに活動したいと望んでいるか、ひとを助ける力を出したいと思っているか、さまざまな「したい」思いを専門分野と連携することによって「できた」に変えることで、今までよりも強い地域力と共生の社会を作り上げることの実践であり、発災前・後の支援の在り方が変わると期待される。

成果と課題

ー成果として得たこと

防災というジャンルに面白さを取り入れることの必要性を実感した。

視覚障がい者が健常者と一緒になって町を歩き、発災時に危険と思われる箇所の発見を行ったことは、一歩進んだ障がい者理解の活動となった。

障がいを持っていても、普通救命講習を受けることができたこと、講師の消防署の方々も障がいを持っていても支援者になれることを確認できた。

特別支援学校の児童生徒には、地域とのつながりや、協力し助け合う必要性を知るきっかけとなった。

ー全体の反省・感想・課題

地域と結びつける手法を提供できたことは全国的にも自信を持って紹介できると考える。自発的な意識や活動を進めることで、視覚障がいでも、聴覚障がいでも、必ず支援者になりうると思われるが、障がい当事者にできることがあるということを見つけられなかった。できることを伸ばす機会を持たなかった等、過去を見つめなおすきっかけとなった。今後は外国籍の方々や、知的障がいや精神障がいの方々とも一緒になって行える機会としていきたい。



ー今後の継続予定

防災運動会に付随した様々なイベントも、地域と共にある施設などであれば必ずできること。多くの企業に協力していただくことにより、防災啓発にもなり、地域力をあげることにもなるので防災の意味を広げ活動に結び付けていきたい。

⑭ 高知県立高知東高等学校

プラン名 防災文化を広げよう～学校から地域へ・学校へ～

プランの対象

全校生徒・教職員、保育園児、小学生、他校高校生、地域住民

所在地

高知県高知市

プランの目的・ここがポイント！

－プランの目的・ここがポイント！

本校のこれまでの取り組みを継続するとともに、防災教育を通じて防災文化を、地域や他の高校などに広げていくことを目的とした。高校生自身が創意・工夫をしながら取り組みむとともに、地元小学校、地域、他の高校などとのつながりを構築する点、取り組みの成果を広げる点がプランの大きなポイントである。

－プランの概要

本校の生徒が地域に出たり高校生どうしがつながることで、防災文化を広げることが主眼に実施した。
 ○高校生地震防災ワークショップ（地震防災をテーマに交流）、○おもしろサイエンス&じしんぼうさい教室（科学部の高校生が小学生に）、○本県が著作権をもつ「防災キャラクター」の教育現場での活用、
 ○授業等での教材の作成、およびそれらの保育園・小学校や地域で演示・展示等、
 ○地震防災フィールドワーク（地域から学ぶ・地域で学ぶ）他

－期待される効果・ここがおすすめ！

高校生が校外で活動することは、高校生自身の学びとともに、地域の励みや希望にもつながっている。さらに、高校生どうしの学校間交流は、今後、防災教育を生徒の視点で各校に広げるきっかけづくりとなったとともに、教員レベルでの交流の礎となる。これらの取り組みにより、防災文化が他校や地域にさらに広がることが期待される。

成果と課題

－成果として得たこと

学校外での活動が増えた。また、「高校生地震防災ワークショップ」の取り組みなど、学校間が連携した防災教育をすすめるきっかけづくりができた。さらに、このような取り組みや、高校生が地域に出て行くことは、高校生自身の学びの場になっているが、地域を励ましている側面もある。防災教育チャレンジプランを通じて、信頼される、期待される学校づくりにもつながった。

－全体の反省・感想・課題

本校の防災教育をすすめる組織は、前回の防災教育チャレンジプランをきっかけに設置され、引き続き役割を担ってきたが、防災教育の継続性を重視し、来年度からは校務分掌を再編して「環境安全部」を中心に行うことになる。今回のチャレンジプランは、これまでの取り組みを整理する機会となり、また、防災教育を全県的にすすめる上での本校の役割を明らかにした。喫緊の課題といえる南海地震に対する取り組みを、さらに継続していくことが、大きな課題である。



－今後の継続予定

これまでの定着した取り組みを継続することで、生徒たちに知識や技能を身につけさせ、行動できる人材を育成する。また、今後も校内だけの取り組みにとどまらず、それらを活かして、地域や小学校との連携、高校生どうしの横のつながりを大切にした取り組みを続けていく予定である。そのことで、日常生活の中で「防災」があたりまえになり、「防災文化」として定着することを目標に取り組みたいと思う。

1 滋賀県立 彦根工業高等学校 都市工学科

プラン名

かまどベンチづくり
～工高生のものづくりによる地域防災力向上～

応募部門

高等学校の部

所在地

滋賀県彦根市

プランの目的・特徴等

通常はベンチとして利用し、非常時には炊き出しができるかまどとなる「かまどベンチ」を、本校近隣の小学校や公園等（避難場所）に、本校生徒が外向き製作します。小学生児童や自治会の方などとの共同製作や交流、連携をとりながら製作活動を展開します。工高生の「防災教育」や「ものづくり教育」による社会貢献や地域防災力の向上、さらに「防災」をキーとして、地域と学校のつながり強化を目指します。



団体紹介

本校都市工学科は、土木工学系の学習する学科として、滋賀県内で唯一の設置科となっています。道路や河川をはじめとする、人々の暮らしのための「まちづくり（社会基盤）」の知識や技術を中心に学習活動を展開しています。なかでも近年は、琵琶湖をはじめとする地域の環境学習、まちを守る「防災学習」など特色ある取り組みをしています。測量や地図学習の発展として、地理情報システム（GIS）を活用し、近隣小学生児童と交流して「地域安全マップ」の製作など、社会や地域のニーズに応じた学習を展開しています。よろしくお願いいたします。

2 シファン大学生志願者連合会

プラン名

日本の防災教育教科書を手本とした
四川大地震被災地防災教科書の作成と配布プラン

応募部門

小学校低学年の部、小学校高学年の部
中学校の部

所在地

<中国>
四川省シファン市

プランの目的・特徴等

シファン市の学生と教師用防災教科書を作成し、四川地震被災地コミュニティにおける防災体制の確立に一助する。プランの特徴：1) 日本の防災教育教科書を手本とし、科学的知見と被災者たちの実体験に基づいて教科書を作成する。2) 日ごろからの教育を通して、確実に学生に生き延びる力を身につけていく。3) 四川被災地特有の風土にあう防災ネットワークの構築を図る。4) 小中学生が自ら考え、学び、伝えていくことを大切とする。



団体紹介

シファン大学生志願者連合会は、シファン市出身の大学生によるボランティア団体であり、四川大地震後の7月に発足し、現在、208名の会員を擁している。これまでに、シファン大学生志願者連合会は、「極度重災区」と指定されたシファン市、安県、北川県において、被災者の慰安活動、衛生及び防災宣伝、低収入家族調査及びモバイルクリニック活動を実施してきており、地域の住民から高く評価されている。今後も、積極的なボランティア活動を通して、四川被災地の生活の再建、文化の振興に努めていく。

3 特定非営利活動法人 日本沼津災害救援ボランティアの会 (NVN)

プラン名 生命(いのち)に、まっすぐ!
『シルバー AED トレーニング!』

応募部門 大学・一般の部

所在地 静岡県沼津市

プランの目的・特徴等☆☆☆

誰もが可能性を持つが、特にシルバー世代への使用頻度が高いAEDの普及を、同世代を中心に強力に推進する。具体的には消防署とシルバー組織との協働を調整し、AED講習と共に、災害図上訓練(DIG)を活用したAED設置場所の確認マップ作製なども実施する。

そして東海地震などの災害時にも、受動的ではない能動的なシルバー世代を育成し、災害時の弱者救援活動に繋げる事を目的とする。



団体紹介

1995年の阪神淡路大震災現地V活動者により設立。国内外の災害救援活動と共に、青少年防災教育に力を注ぎ、震災翌年春からの阪神防災福祉研修は現在も継続中で、参加青少年は福祉や教職への進路を選ぶものが多い。また、防災教育チャレンジプランに応募し「地震体感・TOUKA | ハウス」と「防災ミュージカル・森のくまさん」が共に防災教育特別賞を受賞し、県内外からの要請を受け、講演会や公演を重ねている。

4 銚子「稲むらの火」防災教育プロジェクト

プラン名 銚子「稲むらの火」ボランティア

応募部門 大学・一般の部

所在地 千葉県銚子市

プランの目的・特徴等☆☆☆

銚子弁で『稲むらの火』は紀州、安政の津波ダッペ!」、被災後の復興資金を産み出した銚子では、まるで他県・他人事。我々は子どもの防災意識を高め、あわせて、郷土への誇りを持たせる事へ狙いを絞った。紙芝居「津波だ!稲むらの火を消すな」を演じる力をアップし、「教える者も教わる者も楽しめる授業づくり」を目指す。ボランティアが互いに得意技や知恵を出し合う「ちょいボラ」の組み合わせで「志の継続性」をはかりたい。



団体紹介

地元企業(エリアサポートジャパン302企画室、損保ジャパン銚子支社、ヤマサ醤油)の三者がCSRの一環として内閣府監修の紙芝居を銚子市へ寄贈(2008年4月17日)すると同時に発足。千葉科学大学危機管理学部と協力し、昨夏、ボランティア養成講座を開催。修了者がボランティア登録をし、出前授業「稲むらの火、防災教室」(小学校1校済、2校予定)、この他(民生児童委員研修会等での演示)で活動中。銚子市民、PTA、大学教員、大学生、郷土史家、紙芝居原案者……が集い運営してきている。団体事務所は、302企画室内に置く。



5 宮城県 丸森町立 丸森東中学校

プラン名 丸東中・^{かいえんたい}改援隊 地域防災対策活動プラン

応募部門 中学校の部

所在地 宮城県伊具郡丸森町

プランの目的・特徴等☆☆☆

本活動では、中学生ができる地域防災の活動内容を、防災訓練や防災マップ作成等の実践を通じて検討し、その成果を本中学校区の地域住民と共有して、地域の防災対策や災害時の活動内容と実施機能の拡充を図ることを目的とする。

その際、本校は避難所の指定を受けており、中学校区の防災拠点として地域と連携・協力を図る必要があり、防災教育活動等で学校を支援していただく地域住民による組織を設立することになっている。



団体紹介

本校は、農業を主とする山間地域にあり、全校生徒50人程度の中学校である。本校学区は少子化と高齢化が進む地域であり、保護者のほとんどが兼業農家で数キロ離れた市や町で働いている。このため、平日の日中には高齢者と小・中学生、そして学校の教職員が本地域にいる状況にあり、近年地震や水害が懸念される中、地域防災対策活動の担い手として生徒と先生が欠かせない状況にある。そこで、本校は退職等された地域住民の方々をメンバーとして、学校教育を支援いただく組織（名称：改援隊）を設立し、地域と連携・協力して地域防災対策活動をはじめ、農業体験学習等を教育実践することになっている。

6 あそび^まma・senka^{せんか}

プラン名 プロジェクトG ～ママの安心防災対策～

応募部門 太学：一般の部

所在地 岩手県盛岡市

プランの目的・特徴等☆☆☆

妊婦～乳幼児をもつ家庭は、地域活動の参加の機会が少なく、災害時に孤立する不安をもっている世帯も多いようです。しかし、行政や支援者は乳幼児に特化したニーズや防災の知識に乏しく、十分な対応ができていないのが現状です。本事業は、対象世帯の防災意識と対策、地域の取り組み状況を把握し、被災者の実例から、防災対策や備蓄物品を検討し提案するなど、防災教育を講じる事を目的といたしました。



団体紹介

あそびma・senkaは、助産師・保育士など子育て・子育てに関わるメンバーで構成され、「親子のコミュニケーションの支援」や「いのちを守り育む活動」を実施すると共に、支援者間のネットワークを構築して参りました。

現在まで、防災教育への具体的な取り組みはしておりませんでした。昨年の岩手宮城内陸地震により、支援に関わる妊婦～乳幼児をもつ家庭の防災に関するニーズが高くなる一方で、十分な対応ができていない現状から、対策が急務と思ひ事業を企画いたしました。

7 早稲田レスキュー

プラン名 震災時の課題と資源を見つけるための地域オリエンテーリング

応募部門 大学・一般の部

所在地 東京都新宿区

プランの目的・特徴等☆☆☆

災害時、早稲田界隈では新宿区・大学・地域・学生の協力関係が必要となりますが、現状その土壌が築けていません。そのため、区・大学・地域の連携体制の強化、大学・学生の防災意識の向上、地域との結びつき強化、という目標を立てました。地域の現状に興味を持たせるために、地域の課題や資源を発見しかつ要援護者の誘導訓練を、実践的なオリエンテーションの中で実施します。併せて、その前後に関係性構築のワークショップを実施します。



団体紹介

早稲田レスキューはサークルではなく、大学のボランティアセンターに属する災害救援プロジェクトの学生チームです。学内の救援や救助、防災に関する知識を有する教職員や新宿区からの協力を得ながら、早稲田周辺地域の防災活動に積極的に参加し、地域・大学・区との関係性や連携体制の構築に努めています。また、来るべき災害に備え、日々学生の防災意識の啓発を行うなど、決して背伸びをすることなく、「学生にできること」を一歩ずつ行うことを第一に活動しています。本プランの実施を通し、多くのアクターに私たちの思いを伝えたいです。

8 神奈川県 平塚保健福祉事務所

プラン名 在宅療養者の理解を深める災害対応講習会

応募部門 中学校の部、大学・一般の部

所在地 神奈川県平塚市

プランの目的・特徴等☆☆☆

中学生に地域の在宅療養者への理解を深め、協力者になってもらい、防災をきっかけに地域福祉への関心をもってもらう目的で平塚保健福祉事務所が中心となり、学校・地域住民・関係機関と協働で実施している『災害対応講習会』は5年目をむかえるが、積み重ねた知識や技術をマニュアル化することで年間を通して中学生の災害教育に活用することと他の中学校等が取り組むきっかけになるなど活動の充実及び広域的展開を図ることができる。



団体紹介

平成10年度から在宅療養者の防災対策として、療養者及び介護者が防災に対しての知識の普及と自助及び共助が図れるよう、在宅療養者防災対策リーフレット『もしも…の時のために』を作成し説明配布を行っています。また、地域住民と協働で療養者の不安である搬送について訪問等で取り組み『搬送パターンカード(8種)』の作成や『医療機器装着者向リーフレット(3種)』等作成し各種媒体や取組みの体験を基に、関係機関や地域住民に対し健康教育を行い在宅療養者の防災対策を地域全体で取り組んでもらえる契機をつくっています。

セーフティ リーダー スチューデント ネットワーク
9 Safety Leader Students' Network (SLS)

プラン名 帰宅困難者対策をテーマする大学生向けの
プログラムづくり

応募部門 大学・一般の部

所在地 東京都港区

プランの目的・特徴等 ☆☆☆

大学にいるときに、首都圏直下型地震が起きた場合に、どのような対応が望まれるかについて、防災教育プログラムで大学生に考えてもらいます。そして、大学生の帰宅困難者対策への関心を高めることによる帰宅困難者対策の向上を展開目標とします。

帰宅困難者対策訓練に参加したことがある経験を活かして、学生の防災ボランティア団体として、防災教育プログラムの作成・実施していきます。



団体紹介

Safety Leader Students' Network (通称 SLS) は、首都圏に在学中の大学生を中心とした防災のボランティア団体です。

様々な大学からメンバーが集まっていることを踏まえて、災害時に必要な知識・技能をメンバー間で共有していく活動を行っています。そして、一人である時でも、災害が起きれば、いた場所で活動を行える人を増やしています。また、誰でも活動に参加することができるので、メールマガジンやHPを活用し、防災の活動の普及を行っています。 HP <http://www.saigai.or.jp/student/>

10 和歌山県立新翔高等学校 防災デザイン選択生

プラン名 「防災紙芝居」の制作と古文書による
過去の地震の調査

応募部門 高等学校の部

所在地 和歌山県新宮市

プランの目的・特徴等 ☆☆☆

1 「防災紙芝居」の内容は、昭和の東南海・南海地震の体験談や様々な資料をもとに、小学生や園児にわかりやすいものとする。それを近隣の小学校や幼稚園・保育所で実施し、地域の防災意識の向上を図る。

2 熊野三山と一寺（那智山青岸渡寺）に残る古文書を調査することで、地域の歴史学習や被災状況を学習する。その内容は、「防災紙芝居」にも反映させる。



団体紹介

本校は、大正6年に新宮町立実業学校として開校し、大正15年和歌山県立新宮商業学校と改称、昭和38年新宮商業高等学校になりました。平成19年和歌山県立新翔高等学校に校名を変更するとともに総合学科に学科改編しました。特色の一つとして「防災」に関する科目を設け、2年次「熊野と防災」、3年次「防災デザイン」の選択科目を設定し、防災教育に取り組んでいます。

防災教育チャレンジプランに期待する

世界中で災害が頻発しています。日本もたくさんの災害におそわれると予想されています。その中には首都直下地震や東海・東南海・南海地震のような広域にわたる巨大な地震災害もふくまれています。こうした21世紀の災害に立ち向かう主役は1980年以降に生まれた若い人たちです。若い人たちが、自分自身を守り、お互いに助け合っていける力を育てておくことが、この国の将来にとって不可欠です。これは学校だけの仕事ではなく、学校・地域・家庭が協力してさまざまな試みを重ねていくことが大切です。

若い人たちの防災に関わる能力の向上を図るための素晴らしいプランをたくさん集め、それらを多くの人々に紹介するために、「防災教育チャレンジプラン」の取組みを続けることにしました。6回目を迎える今年もプラン募集をさせていただいたところ、合計18団体の応募をいただきました。どれも素晴らしい内容でしたが、予算の制約があり、今回はその中から11のプランを選ばせていただきました。防災教育の内容をできるだけ多様にできるプラン、いろいろな場所でできるだけ幅広い層が関われるプランへと成長してほしい「たね」を重点的に選ばせていただきました。選ばれた各団体はいろいろな面で「チャレンジ」し、今後の防災教育を推進する上での共通の資産を増やすために努力をしてください。

今回選ばれた皆さんのプランは今日をスタートとして、1年間の実践を経て大きな実を結び、来年2月のワークショップに戻ってきてくださることを期待してやみません。

防災教育チャレンジプラン実行委員長
京都大学防災研究所巨大災害研究センター 教授

林 春 男

近年、中央防災会議では、東海地震、東南海・南海地震、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震、首都直下地震について、対策のマスタープランとなる地震対策大綱をとりまとめています。いずれの大綱においても、自助及び共助を中心とする“地域防災力の向上”は、重要な課題とされています。また、平成18年4月に中央防災会議で決定された「災害被害を軽減する国民運動の推進に関する基本方針」においても、国民一人一人の防災意識や地域コミュニティの防災力を高め、具体的な減災のための行動を社会全体で実践する“国民運動”を展開することが謳われています。

子供達に対し、学校や地域を中心に“防災教育”を行うことは、子供達だけにとどまらず、その取組に密接に関わる父兄、先生及び近隣住民の方々の防災意識を高め、地域全体の防災力の向上に大きく貢献することが期待されます。

「防災教育チャレンジプラン」の取組は、皆様のご支持を得て、6年目となりました。今回選ばれた11の団体の皆様には、大いにご活躍いただき、この取組のさらなる発展に貢献していただくことをご期待申し上げます。

防災教育チャレンジプラン実行委員会委員
内閣府政策統括官（防災担当）付参事官（地震・火山対策担当）

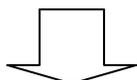
池 内 幸 司

2009年度のスケジュール

2008年度 防災教育チャレンジプラン ワークショップ開催

2009年2月14日(土)・15日(日) (会場：有明の丘基幹的広域防災拠点施設)

- 2009年度チャレンジプラン決定・発表
- 2008年度チャレンジプラン成果発表・表彰(2008年度 防災教育大賞、優秀賞、特別賞の決定)
- 学校や団体等、防災教育関係者の情報交換・事例紹介等



実践

2009年度 防災教育チャレンジプランの実践 2009年6月～2010年2月

- チャレンジプランへのサポート
 - ・ プラン進行や教材作成にあたってのアイデア提供・資材提供等
 - ・ 講師インストラクター等の紹介・派遣等



中間発表

2010年度防災教育チャレンジプランの募集

募集期間：10月～翌年1月中旬

2009年11月(予定)

- 2009年度チャレンジプラン中間報告
- 交流会・意見交換会

成果発表

- プラン開発・実施
- 教材づくり
- 連携体制づくり

┌教育委員会
├NPO・団体
├地域
└学校

募集

審査

決定発表

2009年度 防災教育チャレンジプラン ワークショップ開催 2010年2月(予定)

- 2009年度チャレンジプラン成果発表・表彰
(2009年度防災教育大賞、優秀賞、特別賞の決定)
- 2010年度チャレンジプラン決定・発表
- 学校や団体等、防災教育関係者の情報交換・事例紹介等

委員長	近藤 信司	国立教育政策研究所 所長
委員	青木 健一	東京海上日動リスクコンサルティング株式会社 専務取締役
	安藤 雄太	東京ボランティア・市民活動センター 副所長
	塩澤 雄一	全国連合小学校校長会対策部長／台東区立台東育英小学校校長
	坂口 央一	東京ガス株式会社導管ネットワーク本部防災・供給部 部長
	重川希志依	中央防災会議委員／富士常葉大学大学院環境防災研究科 教授
	田口 尚文	内閣府大臣官房審議官（防災担当）
	中島 康弘	東日本電信電話株式会社 ネットワーク事業推進本部 災害対策室長
	林 春男	京都大学防災研究所巨大災害研究センター 教授
	藤吉洋一郎	大妻女子大学文学部 教授
	山口 博	東京電力株式会社 常務取締役

(五十音順、敬称略)

防災教育チャレンジプラン募集のご案内

防災教育チャレンジプランでは、全国で取り込まれつつある防災教育の場の拡大や質の向上に役立つ共通の資産をつくることを目的に、新しいチャレンジをサポートします。

応募の中から選ばれたプランは、1年間実践した結果を、中間報告会とワークショップ（最終報告会）で成果を発表していただきます。

ワークショップにおいては、優秀な実践活動に対して防災教育大賞、優秀賞、特別賞を授与致します。また、皆さんのチャレンジプランの成果はホームページなどで広く公開致します。

《サポートの内容》

- プランの実践にかかる実費の提供。上限30万円（査定による）
- 中間報告会・ワークショップ（最終報告会）発表者への交通・宿泊費の支給。（1名分）
- プランの実現に向けて、担当の実行委員がついて、ご相談などの支援を行います。

《表彰》

最終報告書と最終報告会の発表を踏まえた審査を行い、優秀な実践活動に対して、防災教育大賞・優秀賞・特別賞を決定し、表彰状を授与します。

《サポート主体》

「防災教育チャレンジプラン実行委員会」及び委員会が紹介する諸団体。

《応募資格》

- 防災教育を一層充実させたいと考えている保育園・幼稚園・学校、教育委員会、地域団体（NPO、行政機関等）
- 中間報告会、最終報告会（ワークショップ）に出席できること。（都内にて開催）

《応募部門（プランの対象別）》

- | | | |
|--------------|-------------|-------------|
| A. 保育園・幼稚園の部 | B. 小学校低学年の部 | C. 小学校高学年の部 |
| D. 中学校の部 | E. 高等学校の部 | F. 大学・一般の部 |

《募集期間》 毎年、活動前年度の10月から翌年1月中旬。



防災教育チャレンジプラン

■ 防災教育チャレンジプラン実行委員会事務局

株式会社パスコ コンサルタント事業部 都市基盤部内
〒153-0043 東京都目黒区東山 1-1-2 東山ビル 5階
電話：03-6412-2505（代）

FAX：03-6412-2593

E-mail：info@bosai-study.net

■ 防災教育チャレンジプランホームページ

<http://www.bosai-study.net/>